

抄録者想ふに日本では更新世の寒冷なりし時代の化石フロラなどは恐くはでまいと思ふ、寒冷なりし時代は植物の繁茂が悪くて、寒地植物のみであるから、化石となる材料が少ないので、間氷期のやうに繁茂した森林のありし時のみ木葉石とも澤山なるのである、寒冷なりし時代の植物は獨り現時の生化石なる高山植物の要素及其の現世分布の状が之を代表するのである。(G. KOIDZUMI)

ブーランガー氏：亞細亞のイバラ屬，第二，(G. A. BOULENGER: — Revision des *Roses* d'Asie. Bull. Jour. Bot. Bruxelles, XIII. 1935. p. p. 165—266.)

Sect. Eglanteriae の *Pimpinelli-Suavifoliae*, *Orientalis*, *Alpinae-Vestitae* 等の各群の研究であつて、*Rosa morrisonesis* HAYATA は *Rosa Webbiana* WALL. に非常に近いものだと考へてゐる、萼片が少し大きいことや葉の鋸齒が少し鋭い位で別けられたものだから餘り異つたものではあるまい。(G. KOIDZUMI)

ツェクツォト氏：トルコブナの分布，第三紀北半球に分布せるフェロンハンノキはハンノキ近似品也，(H. CZECZOTT: — Distribution of *Fagus orientalis*, 1932; — What is *Fagus Feroniae*. in Acta Soc. Bot. Polon. XI. 1934. Suppl. p. p. 109—116.)

トルコブナ (*Fagus orientalis* LIPSKY.) は現世では黒海の西岸 Dobrudscha (Dobruja) に於て Donau 河岸に達し、Bulgaria, Macedonia, Greece, Asia minor, Northern Syria, Persia, Caucasus, Transcaucasia, Crimea 等に分布してゐるが、第三紀には Spain, France, Italy, Czechoslovakia, Greece, Caucasus に分布せしを以て地域はひろかつた。

歐洲、南滿、Alaska, Nevada 等に第三紀時代分布してゐた、*Fagus Feroniae* UNGER と稱するものは、實はブナにあらずしてフェロンハンノキである、**Alnus Feroniae** (UNGER) CZECZOTT は、現今東亞に産するハンノキ *Alnus japonica* (THUNB.) S. et Z. に最も近似せる種である。(G. KOIDZUMI)

ホルツタム氏：馬來半島の木生羊齒 (HOLTUM, R. E.: — The Tree-ferns of the Malay Peninsula, in Bull. Singapore Bot. Gard. VIII. 1935. p. p. 293—320, t. t. 29—36.)

氏は馬來半島の木生羊齒を研究して次の十六種が分布する事を明にせしが、木生羊齒の分類に於ては、葉柄基部の鱗毛の性質、葉柄上の棘其他の隆出突起物、色彩、鱗毛の性質等が重要な性状を示すと云ふ、又氏は *Alsophila*, *Hemitelia* を *Cyathea* に合せり。*Cyathea latebrosa* COPPEL. は Indo-Malayan に最も廣大なる分布をなし、